●ブラックウォールナット総無垢スピーカー設計・制作：岸邦明　アクロージュファニチャーにて試聴可。要問い合わせ

昨年、ある一人の家具職人によって極めて興味深いスピーカーの製作が行なわれた。とりわけ本誌編集部をはじめとしたオーディオ・音楽業界関係者からは大きく注目を集めた、家具工房「ACROGE FURNITURE」岸氏製作のフルレンジブラックウォールナット総無垢スピーカーである。制作者にその過程や難しさを端的にお話しいただいた。

column

音楽を楽しむための装置

■アクロージュファニチャー
一級家具製作技能士　岸邦明

Stereoとの出会いは1年程前。オントモ・ヴィレッジから石田善之氏が監修した無垢材スピーカー「Ishida Model」制作をお受けしたのが始まりだ。多くの方から好評を頂いたことで、オーディオが私の木工人生に本格参入。間もなく「木工の技を活かし、いつか自分のためにスピーカーを作ってみたい」そうした長年の想いを実行した。スピーカーの制作にあたり、テーマは主に3点あった。

・ブラックウォールナット総無垢で制作
・ユニット構成はフルレンジ
・インテリアとしても美しいもの

この他、自宅の低いソファーに座り試聴することを想定し、2m程の距離で小さな音でも響きや奥行きが感じられるよう、また、ラックを中央に配し、デザイン的に一体化しつつも、音が濁らないようスピーカーとはセパレートで設計した。

こうして昨年10月、オリジナルのスピーカーを制作。試聴会も行ない多くの人に好評いただいたが、不評も同じくらいあった。オーディオは実に奥が深く、十人十色の世界だということを知り、その後2カ月間試行錯誤した。

年末、私なりの確信を得るに至り、ユニットは12cmから20cmに交換。新たに上等なアンプを購入し、今は聴いていて楽しいし、いつまでも聴いていたくなる。アドバイスをくれた編集部の吉野さんも「音楽として正しい楽しい音です」と言う。

総無垢のスピーカー。響きが圧倒的に違う。音の芯にブレがない。バイオリンや拍子木が合板だったらどうだろうか。音楽をこよなく愛する読者の皆さんなら想像いただけると思う。無垢だから生み出せる音がある。ただ、無垢なら何でもいい訳ではない。ブラックウォールナットならいい音になる訳でもない。この半年で色々なことが分かった。木によって音が変わる。聴きたい曲によって使用すべき樹種が違うイメージだ。同じ樹種でも木目や重さで音が変わる。このスピーカーは適材の一本の丸太を贅沢に使用し、全てを左右対称に制作している。そうしないと左右の音が同じにならない。

また、無垢の木は毎年伸縮を繰り返す。それを織り込んで構造を決めなくてはならない。使用する場所に適した含水量の材を使わないと、使用後に反ったり、ねじれたり、隙間が空いたりと不具合が生じる。それは余計な振動につながり、音に悪影響を与える。はばからずに言えば、無垢のスピーカーは、無垢の木を知り尽くしている私のような木工家だからできる、逸品の木製品となるエンクロージュアでなくてはならない。

決してこのオーディオは完成している訳ではない。それでもこの不完全なオーディオからこれだけの音が出ていることを、ぜひここに来て聴いてみてほしい。

家具工房 ACROGE FURNITURE
新宿区築地町6 北星ビル2階
Tel. 03-6265-0241
営業時間● 9:00～12:00／14:00～18:30
定休日●不定休
http://www.acroge-furniture.com/